

日本テニス界における大学生プレーヤーのプロ転向に関する研究 A study on turning professional of university tennis players in Japanese tennis

1K09B134

指導教員 主査 間野 義之 先生

土田 万葉

副査 原田 宗彦 先生

【緒言】

日本のテニス人口は現在、実働プレーヤー 300 万人以上、潜在的な愛好者は約 900 万人と言われる程メジャーなスポーツである。また、錦織圭や添田豪などが世界で活躍することで日本テニス界が活性化され始め、ますますプロ選手に対する期待が高まっている。その中で大学生プレーヤーの活躍も目を見張るものがあり、2010 年、2011 年の全日本選手権では日本学生チャンピオンの選手がベスト 4 に進出するなど、男女共にトッププロと互角に競い合うレベルにまで達している。一方で、大学卒業後にプロ転向する選手は少数派であり、大学リーグ戦で活躍したプレーヤーでも、ほとんどが実業団や、一般企業に就職するなどの進路を選択するという現状がある。しかし、能力のある大学生プレーヤーがプロに挑戦しやすい環境を整えば、日本テニス界が更に活性化され、多くのメリットが期待できると考えられる。

【目的】

本研究では、大学生プレーヤーのプロ転向に対する意識調査や、プロテニス選手の活動実態調査を踏まえ、現在の日本テニス界における大学生のプロ転向時の課題を明確にすることを目的とする。

【研究方法】

1. アンケート調査

調査の許可をいただいた、関東大学テニスリーグ 1 部校に所属するテニス部員男女に対し、質問紙によるアンケート調査を行った。大学進学の原因や、卒業の進路、プロ転向に対する意識などを回答して頂いた。

2. インタビュー調査

現役大卒プロ選手 1 名、元プロ選手現大学テニス部監督 1 名、来年からプロ転向を表明した現役大学生選手 1 名に対し、インタビュー調査を行った。3 名ともに、大学時代の選手活動を振り返りながらプロ転向を決意した理由や、プロ選手活動に関する質問をさせて頂いた。

【結果】

アンケート調査から、大学卒業後にテニスを継続する意思がある選手は全体の約 70% を占めていたが、その中でプロテニス選手としての競技活動を希望している選手は約 5% という結果となった。その理由としては、「実力がない」、「将来の生活が不安」といった回答が多く得られた。高校時代と大学時代の最高戦績を比較すると、全国大会出場経験者が、大学では大幅に減少していることも明らかとなったことから、学生大会で良い結果を残すことに難しさがあると言える。また、卒業後は趣味としてテニスを続けたいと回答した選手が多く見られ、その理由として、「仕事に集中したい」、「将来の生活の安定を考えて」という回答が多く得られた。

インタビュー調査からは、プロテニス選手が競技活動する上での課題として、「練習環境の充実化、経済的支援の拡大などがある」という指摘もあり、テニス界全体がビジネスの面で、成長していかなければいけないといったことも明らかとなった。また、大学生プレーヤーがプロ転向した際の強みとして、ライフスキルの獲得が 3 名に共通して挙げられており、体育会運動部における、さまざまな活動が、プロテニス選手にとって、より影響力が大きい経験であることも分かった。

【考察・まとめ】

調査の結果から、大学生プレーヤーは、プロ転向に関して、現時点における自身のテニスの実力に対する不安や、将来の生活に対する不安を強く感じている選手が多いことが明らかとなった。この原因としては、「高校時代と比べて公式大会数が減少しているため、戦績を残すチャンスが狭まる」、「昨今の不景気から、より安定した生活を望む大学生プレーヤーが多いこと」があると推察できた。よって、大学生プレーヤーがプロ転向する際の課題として、「大会数の少なさにより戦績を残すチャンスが減少してしまうこと」、「プロテニス選手という職業が経済的に不安定であること」の 2 点が挙げられる。